

新島基金による新島講座について

同志社創立百周年記念事業の一環として同記念事業寄付金の一部をもって新島基金が設立されました。

○新島基金の目的

新島基金は、同志社立学の精神にもとづき、人間教育を強化し、教育内容の高度化を図り、教育、研究の国際交流を推進し、もって一国の良心たりうる人材の育成に資することを目的とし、

基金の果実をもって (1)新島講座の開設 (2)新たな奨学制度の開設 (3)教育・研究の国際交流の推進などを行うことになっております。

○新島講座

新島講座は、つねに時代を先導する同志社の教育と研究が、更に一層充実、発展し、またその成果が社会の進展に寄与するようにと願って新島基金の目的事業の一つとして設立されたものであり、内外の碩学を招聘し講演会などを開催する講座と、本学園教職員がその研究成果を発表する東京講座の二種類を毎年開催することになっています。

第十回新島講座

今年六月十二日(木)、十三日(金)の二日にわたり、アメリカ、ロックフェラー大学名誉教授、ニール・エルガー・ミラ博士を迎え第十回新島講座公開講演会が開催されました。

○テーマ「恐怖(不安)の実験的研究とその臨床的意義」

六月十二日午後四時

於 同志社新島会館大研修室(二階)

○テーマ「身体的健康に及ぼす心理的ストレスと克服の効果」

六月十三日午後一時

於 同志社大学神学館チャペル

〈講演要旨〉

ミラー博士は、世界の心理学界における泰斗である。イェール大学時代をふり出しに、一九六六年ロックフェラー大学生理心

理研究室に迎えられてから今日に至るまで、博士の独創的研究は、学習心理学、行動薬理学、医学心理学の分野においていかになく発揮され、その輝かしい業績は枚挙のいとまもないほどである。

恐怖と精神的健康

第一回の講演は、「恐怖(不安)の実験的研究とその臨床的意義」と題し、情緒的ストレスが人間の行動異常を形成する成立の過程と、ストレスの克服方法に関して、動物の実験的研究から得た知見がつきつきと提出された。例えばヴァイスの共同実験では、電気ショックが来ることをブザー音で予期でき、回転くるまを回すことでショックを回避できることを学習したネズミと、いつショックがくるか予測が不可能で、ショックを回避することのできない絶望的なネズミとの行動と生理学的変化が比較された。結果は、ストレス対処可能ネズミに比べて、対処不可能なネズミでは、脳内のノ

ルエピネフリンという物質が減少しそのため人間のうつ病のような状態になり、胃を解剖すると、いくつもの潰瘍ができていたというのである。この実験から、人間は、八方ふさがりの事態や葛藤事態に直面し、しかも対処(克服)の手段が全くないときに、最も強い情緒の混乱を生じることが示唆された。また、ストレスに徐々に馴れているほうが、馴れていない人に比べるとそのパニックの程度は小さくてすむし、また、恐怖がいつくるか全く不確定な事態は、あらかじめ分かっているか、覚悟ができている事態に比べると、より大きなストレスを生じるのである。

ストレスと身体的健康

第二回目の講演は、「心理的ストレスと克服が身体の健康に及ぼす影響」と題しなされた。近年、注目されてきた健康心理学は、身体的病気の予防と治療を心理学的観点からアプローチする学問であるが、ミ

ラー博士は、この分野での先駆者である。本講演では、情緒的ストレスがいかに心臓血管系や胃腸疾患に強い影響を及ぼすかを動物実験から得られた研究をおして力説された。また、情動ストレス下で体内に生じる生化学的ならびに神経生理学的変化についても多くの実験例が報告された。さらに注目すべきことは、情緒的ストレスが免疫システムの機能を低下させるという最近の新しい研究成果について言及されたことである。例えば、入学試験前夜には、受験生の免疫グロブリンA型水準が低下するなどまことに興味ある数々の事例が報告された。

二回の講演とも、各会場は立錫の余地もないほどで参加者一同深い感動を覚えた。また質疑応答も活気あふれるものであった。

新島講座・講演内容公刊について

○第一回講座

「THE LIBERAL ARTS TODAY」

アーモスト大学副学長

プロッセラー・ギンフォード博士

頒価七〇〇円

○第二回講座

「STREAMS OF GRACE」

—STUDIES OF JONATHAN EDWARDS, SAMUEL TAYLOR COLERIDGE AND WILLIAM JAMES—

ハーバード大学教授

リチャード・ラインホルド・ニーン博士

頒価一、三〇〇円

○第三回講座

「THE PROFESSIONALIZATION OF SCIENCE」

—FRANCE 1770—1830 COMPARED TO THE UNITED STATES 1910—1970—

プリンストン大学教授

チャールズ・クルストン・ギリス博士

頒価七〇〇円

○第四回講座

「CHANGING BRITISH VIEWS OF JAPAN SINCE THE 19TH CENTURY」

ロンドン大学 (SOAS) 教授・日本研究所所長

ウィリアム・ジュラルド・ビースリー博士

頒価一、〇〇〇円

○第五回講座

「LIBERALISM, CONSERVATISM, AND AMERICAN POLITICS」

コーネル大学教授

セオドア・J・ロウイ博士

頒価五〇〇円

○第六回講座

「CHRISTIAN WITNESS IN CHINA TODAY」

南京大学副学長・南京協和神学院院長

中国基督教三自愛国運動委員会主席

光訓先生

頒価七〇〇円

○第七回講座

「THEORETICAL AND APPLIED LINGUISTICS, PAST, PRESENT, AND FUTURE」

ロンドン大学 (SOAS) 教授言語学部長

ロバート・ハンリー・ロウビンズ博士

頒価五〇〇円

○「環境と法律」

—ハーヴァード・ロー・スクールで教

えし—

元同志社大学法学部教授・現東京大学法学部教授 藤倉皓一郎

○「時間と人間の経済活動」

同志社大学経済学部教授 榎原胖夫

○「白砂を訪ねて」

—鳴き砂の秘密—

同志社大学工学部教授 三輪茂雄

○「縁起絵巻の世界」

—日本人の信仰に関連して—

同志社大学文学部教授 笠井昌昭

○「財閥の家憲と華族の家憲」

—とくに財産管理について—

同志社大学商学部教授 安岡重明

第四回東京講座

○「新島襄全集をめぐって」

—新島襄と仏教徒たち—

学校法人同志社史資料室室長

河野仁昭

○「同志社ラクビー」とともに」

同志社大学文学部教授 岡 仁詩

第五回東京講座

○「新島襄と科学」

同志社大学工学部教授 島尾永康

○「最近の医療問題」

同志社大学法学部教授 大谷 實

第六回東京講座

○「高齢化社会の生活構造と生活問題」

同志社女子大学教授 坂本武人

○「新島襄と自然科学教育」

同志社大学工学部教授 末光力作

各冊子とも頒価五〇〇円

発行者・学校法人同志社

取扱い・同志社収益事業課

(電話〇七五—二五一—三〇三七〜八)

『池袋清風日記——明治十七年——』

編集・発行同志社史資料室

明治十八年六月に、同志社英学校邦語神学科を卒業し、同志社女学校教員、同志社図書館司書をつとめた池袋清風が、日々の出来事を克明に記録した明治十七年の日記全文が、このほど翻刻・刊行された。

清風のこの日記の原本は、大正十三年に清風の遺族から同志社へ寄贈されたもので、松浦政泰著『同志社ローマンス』のほか、『同志社五十年史』、『同志社百年史』などの編纂の際に一等資料として活用されてきたが、全文の翻刻ははじめてである。

学生生徒の修学、伝道をはじめ寮生活、教員（外国人教員を含む）の動静などが、これほど克明に記録されている例は、目下のところ同志社には他にない。空前絶後の

リバイバルの様相（三月）、新島襄校長の二度目の外遊への旅立ち（四月）、徴兵令改正にともなう学内の動揺（一月〜三月）、卒業式（六月）、彰栄館の建設（七月〜九月）、キリスト教演説会とその妨害、その他、重要な記録が少なくない。

清風に在学中から桂園派の歌人として知られており、寮の彼の居室での和歌指導の模様や、歌人との交友の記録は、近代文学史の資料としても価値をもつものである。この明治十七年に清風から和歌の指導を受けている寮生には、大西祝、安部磯雄、湯浅吉郎、三輪礼太郎、滝能武太らがいる。文人の筆になるだけに、記録の固苦しさは余り感じられない。

上・下各一〇〇〇円
取扱い・同志社収益事業課
(電〇七五—二五一—三〇三七〜八) まで